



# HyperFlex ポッドの設定

- [前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [HyperFlex ポッド設定 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの作成 \(3 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの手動設定 \(5 ページ\)](#)

## 前提条件

この統合を設定する前に、Cisco HyperFlex システム と Cisco UCS Director で前提条件タスクを完了しておく必要があります。

## Cisco HyperFlex システムの前提条件

Cisco UCS Director と統合する前に、Cisco HyperFlex システム で以下の前提条件タスクを完了しておく必要があります。

前提条件	ドキュメントへのリンク
Cisco HyperFlex HX シリーズ ノードのインストール	<a href="#">『Cisco HyperFlex HX-Series Install and Upgrade Guides』</a>
Cisco HyperFlex システム ソフトウェアのインストールと設定	<a href="#">Cisco HyperFlex システム スタートアップ ガイド</a>
VMware vCenter での Cisco HX Data Platform クラスターの作成	<a href="#">Cisco HyperFlex システム スタートアップ ガイド</a>

## Cisco UCS Director の前提条件

Cisco HyperFlex システム を統合する前に、Cisco UCS Director で以下の前提条件タスクを完了しておく必要があります。

前提条件	ドキュメントへのリンク
Cisco UCS Director のインストール	<a href="#">『Cisco UCS Director Installation Guides』</a>
(任意) Cisco UCS Director ベア メタル エージェント のインストール	<a href="#">『Cisco UCS Director Installation Guides』</a>
Cisco UCS Director のライセンスのインストール	<a href="#">『Cisco UCS Director Installation Guides』</a>
必要なグループおよびユーザの作成	<a href="#">『Cisco UCS Director Administration Guide (Cisco UCS Director アドミニストレーションガイド) 』</a>

## HyperFlex ポッド設定

Cisco UCS Director にログインすると、[コンバージド (Converged)] 画面が表示されます。この画面には、環境に現在設定されているポッドが表示されます。この画面で、新しいポッドを追加したり、既存のポッドを選択してポッド内のリソースの詳細を表示したりできます。

ポッドは手動で作成することもできますし、ガイド付きセットアップウィザードを使用して作成することもできます。

**[HyperFlex ポッド設定 (HyperFlex Pod Configuration)]** ウィザードによりすべてのサーバを追加

[HyperFlex ポッド設定 (HyperFlex Pod Configuration)] ウィザードの指示に従って、Cisco UCS Director で Cisco HyperFlex システム用のポッドを作成します。すべてのサーバが自動的に Cisco UCS Manager アカウントに追加されます。このウィザードを使用する場合、特定のサーバだけをポッドに追加するオプションはありません。ガイド付きセットアップウィザードによる HyperFlex ポッドの設定については、次を参照してください。[Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの作成 \(3 ページ\)](#)

**選択したサーバまたはすべてのサーバを手動セットアップにより追加**

手動セットアップでは、購入した物理サーバライセンスの数に基づいて、選択したサーバまたはすべてのサーバを Cisco UCS Manager アカウントに追加できます。HyperFlex ポッドの手動設定については、次を参照してください。[Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの手動設定 \(5 ページ\)](#)

ポッドの設定を完了すると、Cisco HyperFlex システム でデータストアの管理や VM のプロビジョニングを行えるようになります。

# Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの作成

始める前に

[前提条件 \(1 ページ\)](#) に記載されているすべての前提条件タスクを完了する必要があります。

**ステップ 1** [管理 (Administration)] > [ガイド付きセットアップ (Guided Setup)] を選択します。

**ステップ 2** [HyperFlex ポッドのセットアップ (HyperFlex Pod Setup)] をダブルクリックしてウィザードを起動します。

Cisco UCS Director を開くと [ガイド付きセットアップ (Guided Setup)] 画面が表示される場合は、[HyperFlex ポッド設定 (HyperFlex Pod Configuration)] ウィザードのチェックボックスをオンにして、[送信 (Submit)] を 2 回クリックします。この場合、ステップ 4 に進むことができます。

**ステップ 3** [概要 (Overview)] 画面で、表示された内容を確認してから [次へ (Next)] をクリックします。

**ステップ 4** [ポッド (Pod)] 画面で、次のいずれかの操作を実行してから [次へ (Next)] をクリックします。

- [ポッド (Pod)] ドロップダウン リストから既存の HyperFlex ポッドを選択します。
- [POD フォームの追加 (Add POD Form)] をクリックしてフィールドに入力し、新しい HyperFlex ポッドを作成して [追加 (Add)] をクリックします。

**ステップ 5** [VMware] 画面で、次の操作を実行します。

a) [アカウント (Accounts)] ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- 既存の VMware クラウドアカウント
- 新規 VMware クラウドアカウントを作成する場合は、[選択 (Select)]

b) [選択 (Select)] を選択した場合は、[新規アカウントの作成 (Create New Account)] 領域のフィールドに値を入力します。

新規アカウントを作成するには、次の情報が必要です。

- クラウドの名前
- vCenter またはホストのアドレス
- クレデンシャル ポリシー、または管理者権限あるいはルート権限が割り当てられている有効な vCenter アカウントのユーザ ID とパスワード
- vCenter アドレスへのアクセスに使用されるポート
- アクセス URL

画面の残りのフィールドはオプションです。

c) [Next] をクリックします。

**ステップ 6** [Cisco UCS Manager] 画面で、次の手順を実行します。

- a) [アカウント (Accounts) ] ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。
- 既存の Cisco UCS Manager アカウント
  - [選択 (Select) ] を選択して、新しい Cisco UCS Manager アカウントを作成
- b) [選択 (Select) ] を選択した場合は、[新規アカウントの作成 (Create New Account) ] 領域のフィールドに値を入力します。

新規アカウントを作成するには、次の情報が必要です。

- アカウント名
- Server address
- クレデンシャル ポリシー、または管理者権限付きの有効な Cisco UCS Manager アカウントのユーザ ID とパスワード
- 転送タイプ
- このアドレスへのアクセスに使用されるポート

(注) このプロセスでは、すべてのサーバが自動的にポッドに追加されます。ライセンスの数がサーバの数よりも少ない場合は、エラーメッセージが表示されます。この問題を解決するには、ガイドセット付きセットアップウィザードをキャンセルし、代わりに HyperFlex ポッドを手動で設定します。Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの手動設定 (5 ページ) を参照してください。

- c) [Next] をクリックします。

**ステップ 7** [Cisco HyperFlex] 画面で、次の手順を実行します。

- a) [アカウント (Accounts) ] ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。
- 既存の Cisco HyperFlex アカウント
  - [選択 (Select) ] を選択して、新しい Cisco HyperFlex アカウントを作成
- b) [選択 (Select) ] を選択した場合は、[新規アカウントの作成 (Create New Account) ] 領域のフィールドに値を入力します。

新規アカウントを作成するには、次の情報を入力します。

- アカウント名
- クラスタ管理 IP アドレス
- 既存のクレデンシャルポリシーを使用する場合は、[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy) ] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンリストからクレデンシャルポリシーを選択します。
- クレデンシャルポリシーを使用しない場合は、管理者権限付きの有効な Cisco HX Data Platform アカウントのユーザ ID とパスワードを入力します。
- 同じ HyperFlex クレデンシャルを使用する HTTPS ポートまたは SSH ポート

c) [Next] をクリックします。

**ステップ 8** [要約 (Summary) ] 画面で、ウィザードで設定した各項目のステータスを確認します。

**ステップ 9** [要約 (Summary) ] のすべての項目が許容される場合は、[閉じる (Close) ] をクリックします。設定を更新するには、[戻る (Back) ] をクリックします。

## Cisco UCS Director での HyperFlex ポッドの手動設定

始める前に

**前提条件 (1 ページ)** に記載されているすべての前提条件を満たす必要があります。

Cisco UCS Manager および VMware に追加する基本ライセンスとサーバライセンスが使用可能であることを確認します。

**ステップ 1** HyperFlex ポッドを作成します (または既存のものを選択します)。[Pod の追加 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

ポッドの [タイプ (Type) ] を選択する際は、ドロップダウンリストから [HyperFlex] ポッドを選択します。

**ステップ 2** VMware アカウントを追加します (または既存のものを選択します)。[VMware クラウドの作成 \(7 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 3** Cisco UCS Manager アカウントを追加します (または既存のものを選択します)。[Cisco UCS Manager アカウントの追加 \(11 ページ\)](#) を参照してください。

[サーバ管理 (Server Management) ] を選択する際は、ドロップダウンリストから [選択したサーバ (Selected Servers) ] を選択し、特定のサーバを HyperFlex ポッドに追加します。

**ステップ 4** HyperFlex アカウントを追加します (または既存のものを選択します)。参照先 [HyperFlex アカウントの追加 \(14 ページ\)](#)

## Pod の追加

**ステップ 1** [管理 (Administration) ] > [物理アカウント (Physical Accounts) ] を選択します。

**ステップ 2** [物理アカウント (Physical Accounts) ] ページで [ポッド (Pods) ] をクリックします。

**ステップ 3** [Add] をクリックします。

**ステップ 4** [ポッドの追加 (Add Pod) ] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	Pod の記述名です。

名前	説明
[Type] ドロップダウン リスト	<p>追加するポッドのタイプを選択します。次のタイプのいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [FlexPod]</li> <li>• [VersaStack]</li> <li>• Generic</li> <li>• [ExpressPod ミディアム (ExpressPod Medium) ]</li> <li>• [VSPEX]</li> <li>• [ExpressPod スモール (ExpressPod Small) ]</li> <li>• [Vblock]</li> <li>• HyperFlex</li> <li>• [仮想 SAN ポッド (Virtual SAN Pod) ]</li> </ul> <p>汎用タイプ以外の Pod には、特定の物理コンポーネントおよび仮想コンポーネントにのみ対応しています。汎用ポッドには特定のポッドライセンスは必要ありません。また、汎用ポッドには、任意のタイプの物理コンポーネントまたは仮想コンポーネントを追加できます。Pod の実行に必要な個々のデバイス ライセンスを含む、バンドルされた Pod ライセンス (FlexPod、Vblock、VSPEX) の詳細については、『<a href="#">Cisco UCS Director Installation and Upgrade Guides</a>』を参照してください。</p> <p>(注) VersaStack ポッドと汎用ポッドのみが、Cisco UCS Director の IBM アカウントでサポートされています。</p>
[サイト (Site) ] ドロップダウン リスト	Pod を追加するサイトを選択します。環境にサイトがない場合は、このステップを省略できます。
[Description] フィールド	(任意) Pod の説明です。
[Address] フィールド	Pod の物理ロケーションです。たとえば、このフィールドには Pod の市区町村、またはその他の内部的な識別子を入力します。
[POD を非表示 (Hide Pod) ] チェックボックス	<p>統合チェック ビューにポッドを表示したくない場合は、オンにしてポッドを非表示にします。Pod からアカウントの追加または削除は引き続き実行できます。</p> <p>たとえば、このチェック ボックスを使用して、物理要素や仮要素の存在しないポッドが統合ビューに表示されないようにすることができます。</p>

ステップ5 [Add] をクリックします。

#### 次のタスク

Pod にアカウントを 1 つ以上追加します。

## VMware クラウドの作成

VMwareクラウドの作成時に、次のいずれかの方法でデータセンターとクラスタを指定できます。

- クレデンシヤル ポリシーに含まれます。
- [VMware データセンター (VMware Datacenter) ] および [VMware クラスタ (VMware Cluster) ] フィールド
- [Discover データセンター/クラスタ (Discover Datacenters / Clusters) ] チェック ボックス



(注) クレデンシヤル ポリシー内のデータセンターや VMware データセンターおよび VMware クラスタを選択できます。[クラウドの追加 (Add Cloud) ] 画面およびクレデンシヤル ポリシー フォームでデータセンターを指定すると、エラーになります。

ステップ1 [管理 (Administration) ] > [仮想アカウント (Virtual Accounts) ] を選択します。

ステップ2 [仮想アカウント (Virtual Accounts) ] ページで [仮想アカウント (Virtual Accounts) ] をクリックします。

ステップ3 [Add] をクリックします。

ステップ4 [クラウドの追加 (Add Cloud) ] 画面で、次を含む必須フィールドに値を入力します。

名前	説明
[Cloud Type] ドロップダウン リスト	<p>使用可能なクラウド タイプが表示されます。 [VMware] を選択します。</p> <p>(注) 次のフィールドは、[VMware] を選択した場合に表示されます。他のクラウド タイプでは、そのクラウド タイプに固有のフィールドが表示されます。</p>

名前	説明
[Cloud Name] フィールド	クラウドの名前。この名前に一重引用符を含めることはできません。  (注) Cisco UCS Director 内では各クラウドに固有の名前を付ける必要があります。クラウドの追加後は、すべてのレポートでこのクラウド名によって表されます。
[Server Address] フィールド	vCenter サーバのアドレス。
[Use Credential Policy] チェックボックス	手動で情報を入力する代わりに、このアカウントのクレデンシャルポリシーを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy) ] ドロップダウン リスト	[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy) ] をオンにした場合は、このドロップダウンリストから使用するクレデンシャルポリシーを選択します。  このフィールドが表示されるのは、クレデンシャルポリシーの使用を選択した場合のみです。
[サーバのユーザID] フィールド	vCenter サーバのユーザ名。
[サーバのパスワード] フィールド	vCenter サーバのパスワード。
[サーバアクセスポート] フィールド	サーバポート番号。
[サーバアクセスURL] フィールド	サーバアクセス URL。
[VMwareデータセンター (VMware Datacenter) ] フィールド	vCenter アカウントのデータセンター名。
[Discover データセンター/クラスタ (Discover Datacenters / Clusters) ] チェックボックス	VMware データセンターと関連する VMware クラスタを検出して使用するには、このチェックボックスをオンにします。
[VMwareクラスタ (VMware Cluster) ] フィールド	vCenter アカウントの VMware クラスタの名前。  この名前を使用して、指定されているポッドのリソースを検出、監視、管理できます。vCenter アカウント全体がCisco UCS Director によって管理される場合は、このフィールドを空白にします。



名前	説明
[データセンター/クラスタの選択 (Select Datacenters / Clusters) ]フィールド	<p>使用したい関連データセンターとクラスタをチェックします。</p> <p>(注) このフィールドは、[Discover データセンター/クラスタ (Discover Datacenters / Clusters) ]チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。</p>
[SRMを有効化します (Enable SRM) ]チェックボックス	<p>アカウントの Site Recovery Manager (SRM) を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[プライマリ SRMサーバアドレス (Primary SRM Server Address) ]フィールド	<p>プライマリ SRM サーバの IP アドレス。</p> <p>(注) このフィールドは、[SRMを有効化します (Enable SRM) ]チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。</p>
[プライマリ SRM サーバのユーザ ID (Primary SRM Server User ID) ]フィールド	<p>プライマリ SRM サーバのユーザ ID。</p> <p>(注) このフィールドは、[SRMを有効化します (Enable SRM) ]チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。</p>
[プライマリ SRM サーバのパスワード (Primary SRM Server Password) ]フィールド	<p>プライマリ SRM サーバのユーザのパスワード。</p> <p>(注) このフィールドは、[SRMを有効化します (Enable SRM) ]チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。</p>
[プライマリ SRM サーバアクセスポート (Primary SRM Server Access Port) ]フィールド	<p>プライマリ SRM サーバのポート番号。SRMバージョン 6.0 の場合は、ポート番号として「9086」と入力します。</p> <p>(注) このフィールドは、[SRMを有効化します (Enable SRM) ]チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。</p>
[リモート SRM サーバユーザ ID (Remote SRM Server User ID) ]フィールド	<p>リモート SRM サーバのユーザ ID。</p> <p>(注) このフィールドは、[SRMを有効化します (Enable SRM) ]チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。</p>

名前	説明
[リモート SRM サーバパスワード (Remote SRM Server Password) ] フィールド	リモート SRM サーバのユーザ ID のパスワード。  (注) このフィールドは、[SRM を有効化します (Enable SRM) ]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO の使用 (Use SSO) ] チェック ボックス	シングルサインオン (SSO) による認証を行うには、このチェック ボックスをオンにします。  SSO オプションは、仮想 SAN (VSAN) にのみ使用可能です。SSO のクレデンシャルは、仮想 SAN クラスタのストレージプロファイルを使用した VM のプロビジョニングが必要です。
[SSO サーバのアドレス (SSO Server Address) ] フィールド	シングルサインオンサーバの IP アドレス。  (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO) ]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO サーバのユーザ ID (SSO Server User ID) ] フィールド	SSO サーバのユーザ ID。  (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO) ]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO サーバのパスワード (SSO Server Password) ] フィールド	SSO サーバのユーザ ID のパスワード。  (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO) ]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO サーバのアクセスURL (SSO Server Access URL) ] フィールド	SSO サーバアクセス用の URL。  (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO) ]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[SSO サーバのアクセスポート (SSO Server Access Port) ] フィールド	ポート番号vCenter バージョン 5.x の場合は、ポート番号として「7444」と入力します。  (注) このフィールドは、[SSO の使用 (Use SSO) ]チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[サーバアクセスURL] フィールド	サーバアクセス用の URL。

名前	説明
[Description] フィールド	クラウドの説明。
[Contact Email] フィールド	クラウドの連絡先の電子メールアドレス。
[Location] フィールド	ロケーション。
[POD] ドロップダウンリスト	<p>コンバージドインフラストラクチャポッドを選択します。</p> <p>ポッドの名前を選択すると、VMware クラウドのアカウントが、コンバージドインフラストラクチャスタックにて使用可能となります。</p> <p>(注) 仮想 SAN ポッドには、複数の仮想アカウントを追加することはできません。</p>
[サービスプロバイダー (Service Provider) ] フィールド	サービスプロバイダーの名前。

ステップ 5 [Add] をクリックします。

## Cisco UCS Manager アカウントの追加

始める前に

Cisco UCS Manager アカウントが属する Pod を追加します。

ステップ 1 [管理 (Administration) ] > [物理アカウント (Physical Accounts) ] を選択します。

ステップ 2 [物理アカウント (Physical Accounts) ] をクリックします。

ステップ 3 [Add] をクリックします。

ステップ 4 [アカウントの追加 (Add Account) ] 画面で、次の操作を実行します。

- a) [ポッド (Pod) ] ドロップダウンリストから、このアカウントが属しているポッドを選択します。
- b) [カテゴリタイプ (Category Type) ] ドロップダウンリストから、[コンピューティング (Computing) ] を選択します。
- c) [アカウントタイプ (Account Type) ] ドロップダウンリストから、[UCSM] を選択します。
- d) [Submit] をクリックします。

ステップ 5 [アカウントの追加 (Add Account) ] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[認証タイプ (Authentication Type) ] ドロップダウンリスト	<p>アカウントに使用する認証タイプを選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ローカルで認証済み (Locally Authenticated) ] : ローカルで認証されたユーザアカウントとは、ファブリック インターコネクトを介して直接認証されたユーザアカウントのことであり、管理者権限または AAA (認証、認可、アカウントティング) 権限を持っていてれば誰でも有効/無効にすることができます。</li> <li>• [リモートで認証済み (Remotely Authenticated) ] : リモートで認証されたユーザアカウントとは、LDAP、RADIUS、TACACS+のいずれかを介して認証されたユーザアカウントのことです。</li> </ul>
[サーバ管理 (Server Management) ] ドロップダウンリスト	<p>アカウントのサーバをどのように管理するか選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [すべてのサーバを管理 (All Servers) ] : すべてのサーバが管理されます。このオプションがデフォルトです。このオプションを選択すると、管理の状態ですべてのサーバが追加されます。</li> <li>• [選択したサーバのみ管理 (Selected Servers) ] : 選択したサーバのみが管理されます。必要に応じて管理サーバリストからサーバの追加および削除ができます。このオプションを選択すると、未管理の状態ですべてのサーバが追加されます。</li> </ul>
[Account Name] フィールド	アカウントに割り当ててる一意の名前です。
[Server Address] フィールド	Cisco UCS Manager の IP アドレスです。クラスタ設定では仮想 IP アドレスになります。
[Use Credential Policy] チェックボックス	手動で情報を入力する代わりに、このアカウントのクレデンシャルポリシーを使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
[Credential Policy] ドロップダウン リスト	<p>[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy) ] チェックボックスをオンにした場合は、このドロップダウンリストから使用するクレデンシャル ポリシーを選択します。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合のみです。</p>

名前	説明
[ユーザ ID (User ID) ] フィールド	アカウントが Cisco UCS Manager のアクセスに使用するユーザ名です。このユーザ名は Cisco UCS Manager の有効なアカウントである必要があります。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[Password] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードです。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[UCS 認証ドメイン (UCS Authentication Domain) ] フィールド	リモートで認証するアカウントの認証ドメインです。 このフィールドは、認証されたアカウントをローカルで使用している場合、または、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合は表示されません。
[通信タイプ (Transport Type) ] ドロップダウンリスト	アカウントで使用する通信タイプを選択します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• http</li> <li>• https</li> </ul> このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[Port] フィールド	Cisco UCS Manager のアクセスに使用するポートです。 このフィールドは、クレデンシャル ポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[Description] フィールド	(任意) アカウントの説明です。
[Contact Email] フィールド	管理者またはアカウント責任者の連絡先に使用できる電子メールアドレスです。
[Location] フィールド	アカウントのロケーションです。
[サービスプロバイダー (Service Provider) ] フィールド	(任意) 該当する場合は、アカウントに関連付けられるサービスプロバイダー名です。

ステップ 6 [Add] をクリックします。

Cisco UCS Director によって、Cisco UCS Manager への接続がテストされます。テストが成功する場合は Cisco UCS Manager アカウントを追加して、Cisco UCS Manager にあるアカウントに関連するすべてのインフラストラクチャ要素（シャーシ、サーバ、ファブリックインターコネ

クト、サービスプロファイル、プールなど)を検出します。この検出処理およびインベントリ収集サイクルの完了には、およそ5分かかります。

[管理 (Administration)] > [システム (System)] > [システム タスク (System Tasks)] タブで設定されるポーリング間隔は、インベントリ収集の頻度を指定します。

## HyperFlex アカウントの追加

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [物理アカウント (Physical Accounts)] を選択します。

ステップ 2 [物理アカウント (Physical Accounts)] ページで [物理アカウント (Physical Accounts)] をクリックします。

ステップ 3 [Add] をクリックします。

ステップ 4 [アカウントの追加 (Add Account)] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[POD] ドロップダウン リスト	物理アカウントが属する HyperFlex ポッドを選択します。
[Category] ドロップダウン リスト	[ストレージ (Storage)] を選択します。
[アカウント タイプ (Account Type)] ドロップダウン リスト	[HyperFlex] を選択します。

ステップ 5 [Submit] をクリックします。

ステップ 6 [アカウントの追加 (Add Account)] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Account Name] フィールド	追加したい物理アカウントに割り当てる固有の名前
[Description] フィールド	アカウントの説明。
[クラスタ管理 IP アドレス (Cluster Management IP Address)] フィールド	HyperFlex クラスタ管理 IP アドレス。
[Use Credential Policy] チェックボックス	手動で情報を入力する代わりに、このアカウントのクレデンシャル ポリシーを使用する場合は、このボックスをオンにします。
[Credential Policy] ドロップダウン リスト	[クレデンシャルポリシーの使用 (Use Credential Policy)] をオンにした場合は、このドロップダウン リストから使用するクレデンシャルポリシーを選択します。  このフィールドが表示されるのは、クレデンシャルポリシーの使用を選択した場合のみです。

名前	説明
[Username] フィールド	このアカウントにアクセスするためのユーザ名。 このフィールドは、クレデンシャルポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[Password] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードです。 このフィールドは、クレデンシャルポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[HTTPS ポート (HTTPS Port) ] フィールド	アカウントで使用するサーバポート番号を入力します。 このフィールドは、クレデンシャルポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[SSH Port] フィールド	CLI コマンドを実行する SSH ポート番号を入力します。 このフィールドは、クレデンシャルポリシーの使用を選択した場合には表示されません。
[Contact] フィールド	アカウントの連絡先の電子メールアドレス。
[Location] フィールド	ロケーション。

**ステップ 7** [Submit] をクリックします。`

Cisco UCS Director によって Cisco HyperFlex との接続がテストされます。テストに成功すると、アカウントが追加され、そのアカウントに関連するすべてのインフラストラクチャ要素が検出されます。この検出処理およびインベントリ収集サイクルの完了には、およそ 5 分かかります。

[管理 (Administration) ] > [システム (System) ] > [システム タスク (System Tasks) ] タブで設定されるポーリング間隔は、インベントリ収集の頻度を指定します。

